

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501845		
法人名	有限会社ユアスタッフ		
事業所名	グループホームもいわの里石山館たのし荘		
所在地	札幌市南区石山3条7丁目3番12号		
自己評価作成日	平成27年8月28日	評価結果市町村 受理日	平成27年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=0170501845-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=0170501845-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年9月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1、困難ケアへの取り組み  
「重度化」「終末期」「看取り」「若年性認知症」等ユニットの現状と正面から向き合い、各々の経験を生かし更なる向上を目指しチーム力強化を図っている。
- 2、季節感他  
「春夏秋冬」季節は近隣散歩を実施している。地域の方と挨拶をされたり、散歩コースの「花々・木の実」を觀賞したり「川の流れる音」「車椅子」振動を感じたり・地域の生活や季節を知覚して頂いている。
- 3、アクティビティ  
創作活動に力を入れている。「ちぎり:貼り絵」「折紙:足のある鶴」「粘土細工:果物 食事」「小物入れ」「ステンドグラス」「染物」「タペストリー」「刺し子」他、こつこつ楽しみながら創作、作品は共用空間に掲示、豊かな空間にも繋がっている。
- 4、介護職員のスキルアップ  
毎月 自施設内研修を開催、個人がテーマを決めて個人発表の場を設定している。ケアプランに沿った実践事例を発表している。「料理は好きですか」「苦情対応」「尊厳ある死と向き合う」「身体拘束廃止」「防火について」「緊急時の対応等」介護者にとって重要な知識 事業所に関係する、専門職や職員が勉強会を指導している。演習を通し意欲的に参加している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	創作活動に取り組んでいます。出来る限りコーナーを設け展示に努めています。		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務開始前、理念を読み上げる等し、実践に繋がっている。常に理念が確認できる様に「職員階段室・居間」に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事には参加している。交流を深めている。(町内カラオケ大会 春秋町内会清掃 )春秋火災避難訓練「町内会の皆様へ」発行し、取り組みへの理解と協力を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的開催運営推進会議等の場を通し、認知症について勉強会等実施している。地域社会に役立つ一助になればと努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「生活リポート(創作品 写真入り)」等を作成し報告している。皆さんより貴重な意見等を頂いている。意見は全体会議の場で話し合い、サービス向上に反映している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催、定期会合、研修会には出席し、相談したり情報を共有している。情報はタイムリーに介護に反映している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例等をもとに話し合いをしている、理解を深めている。話し合いは定期的開催の「全体会議」の場等を活用、拘束の無いケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「グループホーム倫理規定」を遵守している。「高齢者虐待防止」等について定期的勉強会を実施している。職員相互間、注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者権利擁護に関して利用者・家族間に限らず、広報・推進会議を通じ地域に広く情報公開している。現状の高齢者権利擁護に関係する事例と対策を職員間で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、「重要事項説明書・契約書」分かり易く説明に努め、理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会の機会、写真や紙面を通じて生活の様子などを伝え意見等を伺っている。職員間で話し合いレクや創作活動、医療連携等に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会合の場やOJTの場を通し、意見吸収に努めている。提案された意見は具現化し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年休の取得や、休憩場所の確保、心休まる環境条件作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修年間計画を策定している。管理者や職員がテーマ持ち主体的に勉強会や演習を実施している。個人のスキルアップや動議付け向上に繋がっている。外部研修、定例地域事業者研修会にも計画的に受講している。育成に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「南地区管理者連絡会」「定例地域事業者研修会」等参加を通じネットワーク作りを行っている。事業所見学、意見交換等実施、サービスの質の向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症者心理について定期会議の場等活用し職員で話し合いをしている。心の状態を推し量り、新しい環境に馴染める様、傾聴と安心な言葉掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の様々な思いを理解し、共感受け止めに努めている。 本人と家族の距離が縮まっていくように 家族の安心に繋がる関係づくりに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期利用段階で十分な情報収集をしている。ご家族の思いと本人らしい生活が出来る様見極め支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム理念である「高齢者を人生の先輩として敬う」を実践している。認め合う関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはケアの一員として、職員は家族の一員として共同意識をもった場面づくりに努めている。面会が少ない家族には通信支援と絵手紙たより支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人来訪時、可能な限り職員も会話の場に入りお話をしている。これまで同様関係継続できる様支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の持ち味を生活に反映出来る様 又、相互居室訪問の機会等に努めている。場面づくりを通し共感したり励ましあったりする光景が多くみられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様から、その後の様子について、お話しを頂く機会がある。その関係を大切にしている。利用者職員にもその内容についてお話している。とても関心を寄せている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のアセスメントを通し思いや意向の把握に努めている。「感じる」感性を大切に、利用者本位に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族への聞き取りや情報提供資料等から馴染みある生活把握に努めている。慣れ親しんだ安心ある生活が送れる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	温度板・介護記録・水分排泄表などから精神運動身体状況を常に把握している。観察を通じ最適な暮らしが送れる様関係機関と連携している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしについて本人や家族から意向を聞いている。ケアプランに反映させている。担当者が毎月モニタリングを実施している。その内容はアセスメントに反映させている。PDCAが回っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・健康 睡眠等について個別経過記録を作成し 介護医療連携 ケアプラン作成等に活用している。 ・「分かり易い言葉遣い」「ケアプランに沿った」実践記録作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の多様なニーズ応えられる様支援に努めている。例 距離的に遠い、頼りになる人が不在等事業所機能を活かし柔軟な支援サービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、近隣の方々とネットワーク作りに努めている。地域在住のボランティアの方と定期的に時間の共有が出来、皆さんの心豊かな暮らしにつながっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的在宅診療で、医師や看護師に気軽に相談できる関係作りをしている。他科受診時も主治医との連携でスムーズな受診に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在宅診療・訪問看護 医療連携体制により月4回利用者を知る看護師と健康管理について相談できる関係が作られている。特に日常気付きについて相談している。 前向きな健康管理に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心した入院が送れる様介護添書を作成し、情報提供している。入院中は情報交換を密にし早期退院に繋がる様連携を密にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて、職員報告会・勉強会を実施している。又、今年度主治医による「看取り研修会」を開催している。医療と連携し行える体制にある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的に職員全員を対象に「応急手当」や「心肺蘇生」の施設内研修を実施している。 ・「緊急時指図書」等を作成 標準化している。何時でも 閲覧確認出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回町内会や消防署の協力を頂き、職員全員参加のもと火災避難総合訓練を実施している。町内会役員さんから毎回貴重な助言を頂いている。実施にあたっては「町内会の皆様」へ近所に配布している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にしている。日頃、記録も心無い記述にならない様に、声掛けも「名字」に「さん」付け注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は人としてさまざまな感情心の働きをもっている。 豊かな情緒や周囲への思いやりを示すことが出来る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る事 出来ない事に注目、状態に応じたコミュニケーションを試みる、興味の無い活動に参加を強制しない、思いに沿った暮らしが送れる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の日は、衣服を選んで頂いている。選ぶ・着る楽しみ生活支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者メニュー日を設けている。又、ホワイトボードに「朝昼夕」メニューを記し、材料の下拵え、食器後片付け等役割を担い作る楽しみ食べる楽しみに繋がっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い、目で楽しめる食生活になる支援をしている。季節の旬の材料を用意、美味しいなど感じる一人一人の状態に応じた食事提供に努めている。水分摂取にも繋がっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内状態は食事への影響が大きい。毎食後口腔内清潔保持。用具衛生管理に努めている。状況に応じ「ブラッシング」支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は「尿意・便意」「場所確認」「抑制」「移動」「下着おろす」「排泄」「ペーパー」「拭く」「流す」数々の行為から成り立っている。個々の能力に応じ支援している。又、トイレ案内板、夜間の照明、時間声掛け支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は生活への影響が大きく、常に排泄状況を把握対応している。繊維質の多い食事、水分摂取に心掛けている。又、腸の働きを促進する運動「棒体操：上体を捻る」他運動を、日常的に多く取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分みな心地好く入浴出来る様支援している。入浴剤入れたり入浴時間調整したり又、「入浴介助指図書」を作成、安心安全に努めている。浴後“気持ちよかったよ”の声が聞かれる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は体調や生活習慣から支援している。又、「活動性」「日射し当たる」場設定に努めている。入床時間は特に限定せず、居間で寛いで頂いている。安眠につながっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者皆さん服薬状況は常に把握している。服薬も心身状態により粉末化 トロミの使用 スラリー状等に対応している。定期的勉強会を実施している。服薬は「服薬指図書」を作成、トラブル発生しないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔取った杵柄 力が発揮できる場面づくりに努めている。役割を担い力の発揮から笑顔が見られる。機会設定の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、要望を伺い出掛ける支援をしている。近隣散策を実施している。町内の方と挨拶を交わされている。音 光 臭 体感 短い間 周囲を感じ取っている。又、車で出掛ける支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の状況に応じ(家族の連携のもと)希望に沿った支援を実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の力量に応じた支援をしている。電話を取り次いだり、本人の気持ちを込めた言葉で代弁している。季節の絵を描き気持ち書き記し「絵手紙」支援している。心の繋がりを感ずる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が創作した「作品掲示」している。これは私の作品だよ・・と家族に伝えている。表情がとても明るい。又、「植物コーナー」「図書コーナー」を設けている。心地良い共用空間となっている。室内空間に季節の一輪挿し飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間:図書コーナー「音読集 月刊誌 写真 漫画、料理本・他」観葉植物コーナー「ポトス プーゲンビリア 他」バルコニー植物「あさがお コスモス 大葉 他」大きなTV エレベーターホール「写真 作品展示コーナー」		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望に応じ居心地良く生活できる様にしている。馴染んだ家具、家族写真、思い出の品に囲まれ過している。安全面も考慮 心地良い空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間を取り囲む居室の配置となっている。必要に応じて「大きな表札」としている。分かり易いトイレ表示。玄関には折り畳み椅子を設備している。力に応じた安全な生活が送れる環境作りをしている。		